

# 講義概要

SYLLABUS

令和5年度

2年前期

理学療法学科

神戸リハビリテーション衛生専門学校

KOBE COLLEGE OF REHABILITATION AND HEALTH

---

講義名 運動学演習

---

講師 前田 剛伸

講師

楠 貴光

---

学年・期 2年前期. 2単位. 60時間 (演習)

---

講義目標 運動学で得た知識を基に演習の中で動作の運動学的特長について理解する。

---

授業計画

第1回	動作観察・分析 総論
第2回	立ち上がり動作の書き方①
第3回	立ち上がり動作の書き方②
第4回	立ち上がり動作の関節運動①
第5回	立ち上がり動作の関節運動②
第6回	立ち上がり動作観察①
第7回	立ち上がり動作観察②
第8回	歩行動作の書き方①
第9回	歩行動作の書き方②
第10回	歩行動作の書き方③
第11回	歩行動作の関節運動①
第12回	歩行動作の関節運動②
第13回	歩行動作の関節運動③
第14回	歩行動作の関節運動④
第15回	歩行動作観察①

---

履修上の注意 演習があるので、いつでも実技に対応できる服装を準備しておくこと。

---

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：前田

---

テキスト 「基礎運動学 第6版補訂」 (医歯薬出版)  
「筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版」 (医歯薬出版)

参考図書 「運動器疾患を学ぶ」 (編集工房ソシエタス)  
その他 「The Center of Body—体幹機能の謎を探る—」 (アイペック)

---

---

講義名 運動学演習

---

講師 前田 剛伸

講師

楠 貴光

---

学年・期 2年前期. 2単位. 60時間 (演習)

---

講義目標 運動学で得た知識を基に演習の中で動作の運動学的特長について理解する。

---

授業計画

第16回	歩行動作観察②
第17回	歩行動作観察③
第18回	歩行動作観察④
第19回	起き上がり動作の書き方①
第20回	起き上がり動作の書き方②
第21回	起き上がり動作の書き方③
第22回	起き上がり動作の関節運動①
第23回	起き上がり動作の関節運動②
第24回	起き上がり動作の関節運動③
第25回	起き上がり動作観察①
第26回	起き上がり動作観察②
第27回	起き上がり動作観察③
第28回	各動作のレポート作成①
第29回	各動作のレポート作成②
第30回	発表

---

履修上の注意 演習があるので、いつでも実技に対応できる服装を準備しておくこと。

---

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：前田

---

テキスト 「基礎運動学 第6版補訂」 (医歯薬出版)  
「筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版」 (医歯薬出版)

参考図書 「運動器疾患を学ぶ」 (編集工房ソシエタス)  
その他 「The Center of Body—体幹機能の謎を探る—」 (アイペック)

---

---

講義名 内科学Ⅱ

---

講師 主田 英之

---

学年・期 2年前期. 1単位. 30時間 (講義)

---

講義目標 理学療法に必要な内科的疾患の概要、病態、診断、治療について理解する。各論では、呼吸循環系、血液・造血系、消化器系、内分泌・代謝系、泌尿器系、免疫系の各種疾患の病態について理解する。

---

授業計画

第1回	消化器疾患①
第2回	消化器疾患②
第3回	肝胆膵疾患①
第4回	肝胆膵疾患②
第5回	血液・造血器疾患①
第6回	血液・造血器疾患②
第7回	代謝・栄養疾患①
第8回	代謝・栄養疾患②
第9回	内分泌疾患
第10回	腎・泌尿器疾患①
第11回	腎・泌尿器疾患②
第12回	膠原病・アレルギー疾患①
第13回	膠原病・アレルギー疾患②
第14回	感染症疾患
第15回	環境要因による疾患 (中毒・物理化学的環境に起因する疾患)

---

履修上の注意

---

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：主田

---

テキスト 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第4版」 (医学書院)

---

参考図書  
その他

---

---

講義名 臨床検査学（画像診断学）

---

講師 岩井 重寿  
伊藤 望美  
楠 貴光

---

学年・期 2年前期.1単位.30時間（講義）

---

講義目標 臨床検査のデータの読み方、および薬物療法の基礎知識について理解する。

---

授業計画	第1回	臨床検査総論（臨床検査とは）	（岩井）
	第2回	一般検査	（岩井）
	第3回	血液検査	（岩井）
	第4回	生化学検査	（岩井）
	第5回	免疫血清学検査	（岩井）
	第6回	微生物検査	（岩井）
	第7回	生理学的検査	（岩井）
	第8回	病理学的検査	（岩井）
	第9回	画像検査①（超音波エコー）	（楠）
	第10回	画像検査②（超音波エコー）	（楠）
	第11回	画像検査③（超音波エコー）	（楠）
	第12回	画像検査④（X p）	（伊藤）
	第13回	画像検査⑤（C T）	（伊藤）
	第14回	画像検査⑥（M R I）	（伊藤）
	第15回	問診・身体所見・記録について	（伊藤）

---

履修上の注意

---

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：岩井

---

テキスト 「系統看護学講座 別巻 臨床検査 第9版」（医学書院）  
「標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 画像評価」（医学書院）

---

参考図書  
その他

---

---

講義名 整形外科学Ⅱ

---

講師 前田 章

---

学年・期 2年前期，1単位，30時間（講義）

---

講義目標 整形外科の基礎科学を理解し、続いて最新の治療について理解する。

---

授業計画

第1回	整形外科疾患各論・・・	肩・肘関節疾患
第2回	整形外科疾患各論・・・	手関節及び手指疾患
第3回	整形外科疾患各論・・・	頰椎疾患
第4回	整形外科疾患各論・・・	胸郭及び胸椎疾患
第5回	整形外科疾患各論・・・	腰椎疾患
第6回	整形外科疾患各論・・・	股関節疾患
第7回	整形外科疾患各論・・・	膝関節疾患
第8回	整形外科疾患各論・・・	足関節と足趾疾患
第9回	外傷総論・・・	捻挫・骨折・脱臼
第10回	外傷総論・・・	骨折・脱臼（上肢）
第11回	外傷総論・・・	骨折・脱臼（下肢）
第12回	外傷総論・・・	脊椎・脊髄損傷
第13回	外傷総論・・・	末梢神経障害
第14回	まとめ1	
第15回	まとめ2	

---

履修上の注意

---

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：前田

---

テキスト 「標準整形外科学 第14版」（医学書院）

---

参考図書  
その他

---

---

講義名 神経内科学Ⅱ

---

講師 中森 友啓 病院で理学療法士としてとして約6年の勤務経験がある。その経験を活かして、神経内科学Ⅱを講義する。  
清原 克哲 病院で理学療法士としてとして約5年の勤務経験がある。その経験を活かして、神経内科学Ⅱを講義する。  
木下 晃紀 病院で理学療法士としてとして約5年の勤務経験がある。その経験を活かして、神経内科学Ⅱを講義する。

---

学年・期 2年前期、1単位、30時間（講義）

---

講義目標 神経内科領域の疾患全般について理解する。2年前期は、脳血管障害、認知症、変性疾患、脱髄疾患、末梢神経障害、筋疾患、感染性疾患について理解する。

---

授業計画

第1回	脳血管障害（総論）
第2回	脳血管障害（脳梗塞）
第3回	脳血管障害（脳出血）
第4回	脳腫瘍、外傷性脳損傷
第5回	感染性疾患（髄膜炎・脳炎）
第6回	変性疾患（パーキンソン病と関連疾患）
第7回	不随意運動症（ハンチントン病・ジストニー）
第8回	認知症疾患、てんかん
第9回	変性疾患（脊髄小脳変性症）
第10回	変性疾患（筋萎縮性側索硬化症）
第11回	脱髄性疾患（多発性硬化症）
第12回	脊椎・脊髄疾患
第13回	末梢神経障害、ギランバレー症候群
第14回	筋疾患（筋ジストロフィー、重症筋無力症）
第15回	先天異常、中毒性疾患

---

履修上の注意

---

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：中森

---

テキスト 「リハビリテーションのための神経内科学 第2版」（医歯薬出版）

---

参考図書  
その他

---

---

講義名 小児科学

---

講師 石丸 庸介

講師

高野 美由紀

---

学年・期 2年前期. 1単位. 30時間 (講義)

---

講義目標 理学療法に関わる小児科疾患について理解する。

---

授業計画	第1回	小児学総論	(石丸)
	第2回	血液・造血器疾患と小児がん	(石丸)
	第3回	ヒトの免疫と免疫不全症	(石丸)
	第4回	遺伝子異常	(高野)
	第5回	染色体異常	(高野)
	第6回	周産期の異常	(高野)
	第7回	知的障害・てんかん	(高野)
	第8回	脳性麻痺等、神経疾患	(高野)
	第9回	循環器・呼吸器疾患	(高野)
	第10回	発達障害総論	(高野)
	第11回	自閉スペクトラム症	(高野)
	第12回	A D H D	(高野)
	第13回	リウマチ性疾患と類縁疾患、アレルギー性疾患	(石丸)
	第14回	感染症	(石丸)
	第15回	地域医療	(石丸)

---

履修上の注意

---

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：石丸

---

テキスト 「小児科学テキスト」 (南江堂)

---

参考図書  
その他

---

講義名	理学療法評価演習 I		
講師	嘉戸 直樹	病院で理学療法士として約25年の勤務経験がある。その経験を活かして、理学療法評価演習 I を講義する。	
	日良 葉子	病院で理学療法士として約20年の勤務経験がある。その経験を活かして、理学療法評価演習 I を講義する。	
学年・期	2年前期。1単位。30時間（講義）		
講義目標	理学療法実施計画を客観的で妥当なものにするために、感覚検査と反射検査の目的を理解し、基本的な検査・測定を通じて知識・技能を修得する。		
授業計画	第1回	感覚検査総論	(日良)
	第2回	感覚の伝導路	(日良)
	第3回	具体的な感覚検査方法	(日良)
	第4回	表在感覚検査（触覚・痛覚・温度覚）	(日良)
	第5回	深部感覚検査（位置覚・運動覚・振動覚）	(日良)
	第6回	複合感覚検査（二点識別覚・皮膚書字覚・立体認知覚・DSS）	(日良)
	第7回	障害別感覚検査・・・末梢神経障害	(日良)
	第8回	障害別感覚検査・・・脊髄レベルでの障害	(日良)
	第9回	障害別感覚検査・・・脳血管障害	(日良)
	第10回	感覚検査まとめ	(日良)
	第11回	反射検査総論（反射とは、反射の診かたの理論的背景）	(嘉戸)
	第12回	反射を診る手順と判定方法、深部反射①	(嘉戸)
	第13回	深部反射②	(嘉戸)
	第14回	表在反射・病的反射	(嘉戸)
	第15回	反射検査の意義・反射所見の記録法、反射検査まとめ	(嘉戸)
履修上の注意	実技の際は身体部位を露出しやすい服装で受講すること。		
成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：日良		
テキスト	「臨床理学療法評価法 第2版」（アイベック） 「ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版」（南山堂）		
参考図書 その他			

講義名	理学療法評価演習Ⅱ		
講師	高橋 優基	病院で理学療法士として約13年の勤務経験がある。その経験を活かして、理学療法評価演習Ⅱを講義する。	
	前田 剛伸	病院で理学療法士として約11年の勤務経験がある。その経験を活かして、理学療法評価演習Ⅱを講義する。	
学年・期	2年前期。1単位。30時間（講義）		
講義目標	徒手筋力検査の原理と方法を理解する。また、正しい検査の実施と判定ができるように、反復して実技を行う。		
授業計画	第1回	徒手筋力検査	総論、抵抗と代償運動 (高橋)
	第2回	徒手筋力検査	上肢筋のテスト（肩甲帯） (前田)
	第3回	徒手筋力検査	上肢筋のテスト（肩甲帯・肩関節） (前田)
	第4回	徒手筋力検査	上肢筋のテスト（肩関節） (前田)
	第5回	徒手筋力検査	上肢筋のテスト（肘関節・前腕） (前田)
	第6回	徒手筋力検査	上肢筋のテスト（前腕・手関節） (前田)
	第7回	徒手筋力検査	上肢筋のテスト（手指） (前田)
	第8回	徒手筋力検査	下肢筋のテスト（股関節） (高橋)
	第9回	徒手筋力検査	下肢筋のテスト（股関節） (高橋)
	第10回	徒手筋力検査	下肢筋のテスト（膝関節） (高橋)
	第11回	徒手筋力検査	下肢筋のテスト（足関節） (高橋)
	第12回	徒手筋力検査	下肢筋のテスト（足・足趾） (高橋)
	第13回	徒手筋力検査	下肢筋のテスト（足・足趾） (高橋)
	第14回	徒手筋力検査	頸筋のテスト (前田)
	第15回	徒手筋力検査	体幹筋のテスト (高橋)
履修上の注意	筋の視診、触診が出来るように、短パン、Tシャツ等を用意してください。		
成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：高橋		
テキスト	「新・徒手筋力検査法 原著第10版Web動画付」（協同医書出版社）		
参考図書 その他	配付資料		

---

講義名 理学療法評価演習Ⅲ

---

講師 伊藤 望美 病院で理学療法士として約20年の勤務経験がある。その経験を活かして、理学療法評価演習Ⅲを講義する。

---

学年・期 2年前期.1単位.30時間（講義）

---

講義目標 理学療法士が実施する種々の機能低下を把握するための検査測定技法を習得し、その結果の解釈について学ぶ。臨床における各検査の有用性を理解し、理学療法評価に応用することを理解する。

---

授業計画

第1回	バイタルサイン①
第2回	四肢長・周径測定
第3回	関節可動域測定①
第4回	関節可動域測定②
第5回	関節可動域測定③
第6回	関節可動域測定④
第7回	「機能的制限」に関わる評価指標の臨床活用
第8回	Functional Reach (FR)
第9回	Timed “Up and Go” test (TUG)
第10回	6-Minute Walking Distance (6MD)
第11回	呼吸・循環機能検査①
第12回	呼吸・循環機能検査②
第13回	協調性検査、整形外科テスト①
第14回	協調性検査、整形外科テスト②
第15回	痛みの評価

---

履修上の注意 検査測定の実演が可能な服装を準備しておくこと。

---

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：伊藤

---

テキスト 「臨床理学療法評価法 第2版」（アイベック）

---

参考図書 配布資料  
その他

---

---

講義名 物理療法学

---

講師 高橋 優基

---

学年・期 2年前期、1単位、30時間（講義）

---

講義目標 運動療法とともに理学療法において、2大治療手段である物理療法の基礎知識並びに機器の使用方法を学び、臨床で実践できる技術を身につけることとする。

---

授業計画

第1回	物理療法の総論、リスク管理
第2回	温熱療法の基礎知識、適応・禁忌
第3回	温熱療法の実施方法、演習
第4回	寒冷療法の基礎知識、適応・禁忌
第5回	寒冷療法の実施方法、演習
第6回	超音波療法の基礎知識、適応・禁忌
第7回	超音波療法の実施方法、演習
第8回	電気療法の基礎知識、適応・禁忌
第9回	電気療法の実施方法、演習
第10回	電磁波療法・光線療法の基礎知識、適応・禁忌
第11回	電磁波療法・光線療法の実施方法、演習
第12回	牽引療法の基礎知識、適応・禁忌
第13回	牽引療法の実施方法、演習
第14回	水治療法の基礎知識、適応・禁忌
第15回	水治療法の実施方法、演習

---

履修上の注意 机上で基礎知識を学習し、その知識を踏まえ、演習を行う。  
また、必要に応じて課題を課す。

---

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：高橋

---

テキスト 「PT・OTビジュアルテキスト エビデンスから身につける物理療法 第2版」（羊土社）

---

参考図書 「物理療法マニュアル」（医歯薬出版）  
その他 「物理療法学 改訂第2版」（金原出版）

---

---

講義名 脳血管障害理学療法学

---

講師 後藤 淳 病院で理学療法士として約34年の勤務経験がある。その経験を活かして、脳血管障害理学療法学を講義する。

大沼 俊博 病院で理学療法士として約24年の勤務経験がある。その経験を活かして、脳血管障害理学療法学を講義する。

---

学年・期 2年前期、2単位、60時間（講義）

---

講義目標 脳血管障害の評価と理学療法について理解する。

---

授業計画	第1回	筋緊張異常に対する評価と理学療法	(後藤)
	第2回	筋緊張異常に対する評価と理学療法	(後藤)
	第3回	筋緊張異常に対する評価と理学療法	(後藤)
	第4回	筋緊張異常に対する評価と理学療法	(後藤)
	第5回	反射検査	(後藤)
	第6回	感覚障害に対する評価と理学療法	(後藤)
	第7回	感覚障害に対する評価と理学療法	(後藤)
	第8回	中枢神経疾患への理学療法(脳血管障害、認知症、高次脳機能障害)	(後藤)
	第9回	中枢神経疾患への理学療法(パーキンソン病と関連疾患)	(後藤)
	第10回	中枢神経疾患への理学療法(脊髄小脳変性症)	(後藤)
	第11回	中枢神経疾患への理学療法(脊髄損傷)	(後藤)
	第12回	中枢神経疾患への理学療法(筋萎縮性側索硬化症)	(後藤)
	第13回	中枢神経疾患への理学療法(多発性硬化症)	(後藤)
	第14回	中枢神経疾患への理学療法(外傷性脳損傷)	(後藤)
	第15回	中枢神経疾患への理学療法(脳腫瘍)	(後藤)

---

履修上の注意

---

成績評価 期末試験により評価する。単位認定者：大沼

---

テキスト 「脳血管障害片麻痺に対する理学療法評価 改訂第2版」(神陵文庫)  
「神経疾患を学ぶ」(編集工房ソシエタス)  
「臨床理学療法評価法 第2版」(アイベック)

参考図書  
その他 「機能障害科学入門」(神陵文庫)

---

講義名	脳血管障害理学療法学		
講師	後藤 淳	病院で理学療法士として約34年の勤務経験がある。その経験を活かして、脳血管障害理学療法学を講義する。	
	大沼 俊博	病院で理学療法士として約24年の勤務経験がある。その経験を活かして、脳血管障害理学療法学を講義する。	
学年・期	2年前期、2単位、60時間（講義）		
講義目標	脳血管障害の評価と理学療法について理解する。		
授業計画	第16回	リスク管理(理学療法場面で起こりえる医療事故やリスク)	(大沼)
	第17回	リスク管理(理学療法関連機器の安全点検・整備)	(大沼)
	第18回	リスク管理(一次救命処置(BLS)について)	(大沼)
	第19回	姿勢保持(ポジショニング、臥床姿勢のチェック)	(大沼)
	第20回	姿勢保持(シーティング、座位姿勢チェック)	(大沼)
	第21回	運動療法・運動学習(関節可動域)	(大沼)
	第22回	運動療法・運動学習(筋力、筋緊張、持久力)	(大沼)
	第23回	運動療法・運動学習 姿勢異常(臥位、座位、立位)に対する運動療法	(大沼)
	第24回	運動療法・運動学習(運動能力・動作能力低下に対する運動療法)	(大沼)
	第25回	運動療法・運動学習(起居移動動作能力低下に対する運動指導)	(大沼)
	第26回	運動療法・運動学習(平衡機能・セルフケア能力低下への運動療法)	(大沼)
	第27回	患者・対象者教育(疾患・機能不全の対応、患者への動機づけ)	(大沼)
	第28回	患者・対象者教育(セルフケア・自主練習について)	(大沼)
	第29回	随意運動能力検査	(大沼)
	第30回	随意運動能力検査	(大沼)
履修上の注意			
成績評価	期末試験により評価する。単位認定者：大沼		
テキスト	「脳血管障害片麻痺に対する理学療法評価 改訂第2版」(神陵文庫) 「神経疾患を学ぶ」(編集工房ソシエタス) 「臨床理学療法評価法 第2版」(アイベック)		
参考図書 その他	「機能障害科学入門」(神陵文庫)		

講義名	骨関節疾患理学療法学		
講師	高橋 優基	病院で理学療法士として約13年の勤務経験がある。その経験を活かして、骨関節疾患理学療法学を講義する。	
	楠 貴光	病院で理学療法士として約11年の勤務経験がある。その経験を活かして、骨関節疾患理学療法学を講義する。	
学年・期	2年前期、2単位、60時間（講義）		
講義目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法の対象となる代表的骨関節疾患の発生機転と病態を理解する</li> <li>・骨関節疾患についての理解を理学療法士の視点から深める</li> <li>・骨関節疾患に対する理学療法の原則を理解する</li> </ul>		
授業計画	第1回	骨関節疾患に対する理学療法の考え方	（高橋）
	第2回	骨関節疾患に対する理学療法でのリスク管理	（高橋）
	第3回	骨関節疾患の発生に関連する力学的負荷	（高橋）
	第4回	骨関節疾患の疼痛に対する評価と理学療法	（高橋）
	第5回	骨折の治癒過程	（高橋）
	第6回	軟部組織の治癒過程	（高橋）
	第7回	腱板断裂・損傷に対する評価と理学療法	（楠）
	第8回	肩関節拘縮に対する評価と理学療法	（楠）
	第9回	鎖骨骨折・肩関節脱臼に対する評価と理学療法	（楠）
	第10回	肩関節不安定症・投球障害に対する評価と理学療法	（楠）
	第11回	上腕骨近位端骨折に対する評価と理学療法	（楠）
	第12回	肘関節部の骨折に対する評価と理学療法	（楠）
	第13回	肘内障・肘関節遊離体に対する評価と理学療法	（楠）
	第14回	橈骨遠位端骨折に対する評価と理学療法	（楠）
	第15回	手指・手の骨折・腱損傷に対する評価と理学療法	（楠）
履修上の注意	実技を行うことがあるため、実技に対応できる服装を準備しておくこと。		
成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：高橋		
テキスト	「運動器疾患を学ぶ」（編集工房ソシエタス） 「ネッター解剖学アトラス 原著第7版」（南江堂）		
参考図書 その他			

講義名	骨関節疾患理学療法学		
講師	高橋 優基	病院で理学療法士として約13年の勤務経験がある。その経験を活かして、骨関節疾患理学療法学を講義する。	
	楠 貴光	病院で理学療法士として約11年の勤務経験がある。その経験を活かして、骨関節疾患理学療法学を講義する。	
学年・期	2年前期、2単位、60時間（講義）		
講義目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法の対象となる代表的骨関節疾患の発生機転と病態を理解する</li> <li>・骨関節疾患についての理解を理学療法士の視点から深める</li> <li>・骨関節疾患に対する理学療法の原則を理解する</li> </ul>		
授業計画	第16回	手の炎症性疾患・末梢神経損傷に対する評価と理学療法	（楠）
	第17回	股関節脱臼・ペルテス病に対する評価と理学療法	（高橋）
	第18回	大腿骨の骨折に対する評価と理学療法	（高橋）
	第19回	変形性股関節症・関節リウマチに対する評価と理学療法	（高橋）
	第20回	下腿の骨折・膝の靭帯損傷に対する評価と理学療法	（高橋）
	第21回	半月損傷・スポーツに関連する疾患に対する評価と理学療法	（高橋）
	第22回	アキレス腱断裂・足関節捻挫に対する評価と理学療法	（高橋）
	第23回	足関節部の骨折・踵骨骨折に対する評価と理学療法	（高橋）
	第24回	静的・動的アライメントの評価	（高橋）
	第25回	頸椎捻挫・頸椎椎間板ヘルニアに対する評価と理学療法	（高橋）
	第26回	頸髄症・胸部出口症候群に対する評価と理学療法	（高橋）
	第27回	脊椎側弯症・脊椎圧迫骨折に対する評価と理学療法	（高橋）
	第28回	腰痛症・腰椎椎間板ヘルニアに対する評価と理学療法	（高橋）
	第29回	脊柱管狭窄症・脊椎分離・すべり症に対する評価と理学療法	（高橋）
	第30回	変形性脊椎症に対する評価と理学療法	（高橋）
履修上の注意	実技を行うことがあるため、実技に対応できる服装を準備しておくこと。		
成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：高橋		
テキスト	「運動器疾患を学ぶ」（編集工房ソシエタス） 「ネッター解剖学アトラス 原著第7版」（南江堂）		
参考図書 その他			

---

講義名 日常生活活動学

---

講師 前田 剛伸

---

学年・期 2年前期. 1単位. 30時間 (講義)

---

講義目標 日常生活活動の概念と範囲について学習し、またその評価を理解する。さらに、基本動作の介助方法やリハビリテーション支援機器について理解する。

---

授業計画

第1回	日常生活活動の概念と範囲
第2回	生活関連活動
第3回	国際生活機能分類① (ICF)
第4回	国際生活機能分類② (事例問題)
第5回	日常生活活動の評価① (ADL評価総論)
第6回	日常生活活動の評価② (バーセルインデックス、FIM)
第7回	自助具
第8回	支援機器と生活環境① (福祉用具)
第9回	支援機器と生活環境② (車椅子)
第10回	支援機器と生活環境③ (福祉用具、車椅子、自助具まとめ)
第11回	コミュニケーション
第12回	障害別日常生活活動の実際① (脳血管障害)
第13回	障害別日常生活活動の実際② (関節リウマチ)
第14回	障害別日常生活活動の実際③ (人工股関節術後)
第15回	障害別日常生活活動の実際④ (自助具・福祉用具の活用方法)

---

履修上の注意

---

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：前田

---

テキスト 「シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト 改訂第3版」 (南江堂)

---

参考図書 配布資料  
その他

---

講義名	地域理学療法学		
講師	藤原 聡	病院で理学療法士として約17年の勤務経験がある。その経験を活かして、地域理学療法学を講義する。	
	黒部 正孝	病院で理学療法士として約5年の勤務経験がある。その経験を活かして、地域理学療法学を講義する。	
学年・期	2年前期.2単位.60時間（講義）		
講義目標	医学モデルから生活モデルへの転換を含めて、理学療法士が医療機関に留まることなく、実生活の場で対象者支援を行うために必要な基本的知識を修得する。また地域包括ケアシステムが展開されている現在、理学療法の領域の拡がりを見据えて、介護予防、健康増進など視野を広げた医療機関以外での多くの活動についても理解する。		
授業計画	第1回	地域理学療法の総論（地域リハビリテーションの背景と変遷）	（藤原）
	第2回	地域理学療法の総論（地域リハビリテーションの対象、地方自治と行政理学療法士）	（藤原）
	第3回	地域包括ケアシステム	（藤原）
	第4回	理学療法士をとりまく制度	（藤原）
	第5回	障害者を対象とした制度における各種サービス、学校教育と特別支援	（藤原）
	第6回	高齢者を対象とした制度におけるサービス	（藤原）
	第7回	対象者をとりまくさまざまな職種、地域における連携	（藤原）
	第8回	退院支援と地域理学療法、障害者のケアマネジメント	（藤原）
	第9回	要介護（支援）高齢者のケアマネジメント	（藤原）
	第10回	地域全体に向けた健康支援、生活者における障害の評価、長期的に支援するために	（黒部）
	第11回	骨関節系疾患の障害構造の視点	（黒部）
	第12回	中枢神経系疾患の障害構造の視点	（黒部）
	第13回	認知症の症候をとらえる視点、終末期の支援	（黒部）
	第14回	身体活動量の向上、IADL評価の重要性	（黒部）
	第15回	障害児・者の理学療法の展開（出生から学校卒業まで）	（黒部）
履修上の注意	講義内容により教室が変更する可能性があるため、必ず週間時間割で確認すること		
成績評価	授業態度、期末試験結果とレポート内容により判断する。単位認定者：藤原		
テキスト	「標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学 第5版」（医学書院）		
参考図書 その他			

講義名	地域理学療法学		
講師	藤原 聡	病院で理学療法士として約17年の勤務経験がある。その経験を活かして、地域理学療法学を講義する。	
	黒部 正孝	病院で理学療法士として約5年の勤務経験がある。その経験を活かして、地域理学療法学を講義する。	
学年・期	2年前期.2単位.60時間（講義）		
講義目標	医学モデルから生活モデルへの転換を含めて、理学療法士が医療機関に留まることなく、実生活の場で対象者支援を行うために必要な基本的知識を修得する。また地域包括ケアシステムが展開されている現在、理学療法の領域の拡がりを見据えて、介護予防、健康増進など視野を広げた医療機関以外での多くの活動についても理解する。		
授業計画	第16回	障害児・者の理学療法の展開（地域活動と治療の狭間など）	（黒部）
	第17回	難病の理学療法の展開	（黒部）
	第18回	要介護（支援）高齢者の理学療法の展開（訪問と通所）	（藤原）
	第19回	要介護（支援）高齢者の理学療法の展開（高齢者施設）、ヘルスプロモーション	（藤原）
	第20回	理学療法の実際（脳性麻痺と難病）	（黒部）
	第21回	理学療法の実際（訪問・通所）	（藤原）
	第22回	理学療法の実際（施設・介護予防）	（藤原）
	第23回	新しい時代の地域理学療法、これからの社会資源とデータヘルス	（黒部）
	第24回	地域理学療法を活かす知識、健康の社会的決定要因	（黒部）
	第25回	これからの地域理学療法に役立つ視点	（黒部）
	第26回	海外の地域理学療法を支える	（黒部）
	第27回	住環境について（校外学習）	（藤原）
	第28回	福祉車両について（校外学習）	（藤原）
	第29回	福祉用具について（校外学習）	（黒部）
	第30回	福祉用具について（校外学習）	（黒部）
履修上の注意	講義内容により教室が変更する可能性があるため、必ず週間時間割で確認すること		
成績評価	授業態度、期末試験結果とレポート内容により判断する。単位認定者：藤原		
テキスト	「標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学 第5版」（医学書院）		
参考図書 その他			